



遠藤医師



遠藤医師との対談

令和元年10月27日、NPO法人「雲を耕す会」主催の春野の暮らしの案内を私（生きがい特派員 池谷）が務めた。はじめに「渋沢栄一と王子製紙」と題して、郷土史家の木下恒雄による講座と王子製紙の煉瓦館の見学。その後は春野町気田の商店街に昨年オープンしてした私設図書館「まほろば文庫」を見学した。ここでは、「まほろば文庫」と遠藤医師について紹介する。

この図書館は、昨年、「はるのケアセンター」（老健とデイサービス）と「もちの木診療所」の遠藤医師（76歳）が中心になって造られた。

運営のみなさんは、ボランティア。読書するだけでなく、地域の人の寄り合いの場、子どもたちの遊び場でもある。折り紙をしたり絵を描いたり、紙芝居を見せたり、囲碁や将棋もできる。

遠藤医師は、もう医師は引退されて、いまは果樹園と菜園づくりに励んでおられる。僧侶の資格も持っておられる。ケアセンターの1階には、薬師如来を祀った仏間があり、毎朝、希望者とともに「般若心経」を読むという。

遠藤医師は、数々の臨床体験をおもちなので、特派員の池谷によるインタビューで、「看とりと平穏死」について語っていただいた。

もはや治癒の可能性のない、肉体があの世界に行こうとしている時、群れに延命治療をすとかえって患者を苦しめてしまうこと。安らかにあの世界に旅立ってもらうためのありようなどについて、お話を伺ったのであった。

問い合わせ：池谷（080-5412-6370）

浜松市北部生きがい特派員 池谷 啓



治療と平穏死について語る